



小泉八雲記念館 編集

小泉凡 監修
渡辺亮 画

小泉八雲の 怪談

頒価 **1,800円**
八雲会会員特価 **1,500円**
送料 1冊80円

(2冊以上ご注文の場合はお問い合わせください)
●八雲会 発行 ●168頁 ●A5判 ●2021年刊



「青柳の話」より

八雲会
The Hearn Society

八雲が再話した
怪談のあらすじ74編を収録

本書は、八雲が日本時代に採集・再話した怪談の全貌とそのアウトラインを知り、怪談文化に関心を持っていただくための手引書です。

74話の怪談話の要旨に、解説とイラストを付し、ビジュアル的にも楽しめる一冊。

「怪談のふるさと松江」からお届けします。



「河童の詫び証文」より

小泉八雲の怪談づくし 購入申込書

FAX:0852-25-1920

[ご注文先]八雲会事務局 〒690-0017 鳥根県松江市西津田6-5-44 松江市総合文化センター内 ゆうちょ口座(振替):01420-2-490
電話・ファックス:0852-25-1920 電子メール:info@yakumokai.org ホームページ:www.yakumokai.org

(ふりがな) 氏名	該当する場合は ○で囲んでください。八雲会会員 特価で取り扱います。	購入部数 部
お届け先の住所 〒		

連絡先(電話、ファックス、電子メール)

青柳の話

能登の國の山田氏に仕える若侍・友忠は、主君の密命を帯びて京の有力大名である細川致元のもとに向かいました。途中、吹雪に遭い困り果てた時、柳の木が生えてくる丘の近くに、茅葺の家を見つけた。その家に老夫婦と青柳という娘が暮らしていましたが、娘は美しく、言葉遣いといい、身のことといい、高貴な身分の娘のようでした。友忠は娘に身も心も奪われ、求婚して京へ連れて行くことにしました。

主君の許可を得ずに結婚したことはやがて細川侯の耳に入り、美しい青柳は邸内へと召し出されました。これを知った友忠は、主君からの殿罰の危険を顧みず邸内の青柳に手紙を書きました。これを知った細川侯から呼び出され、覚悟を決めて

参上すると、あろうことが主君より立派な指言をあげてもらいました。

ところが、結婚して五年後のある朝、突然苦しみ出した青柳が、私たちが結ばれたのも、前世からの宿命、この縁で何處生まれ変わっても一緒になれるでしょう。でも、現世での縁はこれっきり、お別れしなければならぬ、私のためにお念仏を唱えてください、という、それを聞いた夫は驚愕してしまいました。そして、妻は自分人間ではなく木の精であり、木の魂が私の心の柳の精が私の命なのだ、と語りました。そして、誰かが、たまたま、私の木を伐り倒しているから私は死ぬのだと言くと、苦しみ叫び声をあげ、青柳の体はへなへたと倒れて、床に沈み込んでゆき

Roizumi yakumo 94

The Story of Aoyagi, Kenzumi
『怪談』(全10巻)
原典『玉手箱』(巻三)青柳巻



KWAIDAN Dzukushi 25

Roizumi yakumo 96

ました。

友忠は頭を丸め、仏門に入り、諸国行脚の僧となりました。行脚の途中、妻の両親の家を探しました。住まいは跡形もなくなくなり、そこには「日本の庭(知られぬ日本の庭)」とある。日本庭園(知られぬ日本の庭)は、宇布の真理に近く、ギリシヤの木造、フレイムを思わせ、ロマンチックな木造、木に霊性をみとめるアニミズムの感覚に強い共感を持つ八雲でした。

晩年の東大講義も、神話の樹の精は、自分の宿木が枯れ、その命を閉じると語ります。ケルトの民俗信仰「ドール(樹霊)」、「ドール(樹霊)」

ただ三木の切り株があるだけで、友忠は、柳の切り株の傍らに墓文を刻んだ石碑を建て、青柳と両親の霊のために、手廻り供養をしてやりました。

樹木信仰が基礎にあると考えられます。八雲の母方、父方双方の文に、古来、敬虔な樹木信仰が傳じ、たこは見逃せません。ニールリスで八雲がセント・ヘンリー、セント・オスカーの「ドール」(樹霊)、「ドール」(樹霊)は、人生初の授業は、樹霊の力にあやかりたかったのでしょうか。

目次

- 小泉八雲の怪談あらすじ……青柳の話／安芸之介の夢／小豆まぎ橋／天の川縁起／飴を買った女／生霊／いつもあるこゝ／伊藤則資の話／因果話／乳母桜／梅津忠兵衛の話／浦島太郎の伝説／運慶蘇生／閻魔の庁で／お亀の話／おしごり／お城の稲荷／お貞の話／帰ってきた死者／鏡と鐘／鏡の乙女／かけひき／果心居士の話／勝五郎の再生／河童の詫び証文／雉子のお話／狐に騙された豆腐屋／月照寺の化け亀／源助柱／建長寺の地藏菩薩／恋の因果／興義和尚の話／鮫人の恩返し／死骸にまたがった男／食人鬼／十六桜／常識／死霊／倩女の話／団子をなくしたお婆さん／茶碗の中／忠五郎の話／ちんちん小袴／衝立の乙女／天狗の話／鳥取の布団／猫を描いた少年／梅花心易／蠅の話／化け蜘蛛／ハタオリミキリギリス／反魂香／播州皿屋敷／ひまわり／普賢菩薩の伝説／振袖／弁天の感応／葬られた秘密／松江城の人柱伝説／松山鏡／守られた約束／耳なし芳の話／むじな／持田の浦の話／八重垣の玉椿／破られた約束／山姥／幽霊滝の伝説／雪女／夢を喰うもの／力ばかり／ろくろ首／和解／若返りの泉
- 小泉八雲と怪談 小泉凡／小泉八雲と妖怪たち
- 小泉八雲の怪談ビブリオグラフィ／あこがき／参考文献

監修・解説

小泉凡 Koizumi Bon

東京生まれ。小泉八雲の曾孫。成城大学・同大学院で民俗学を専攻後、一九八九年に松江へ赴任。妖怪、怪談を切り口に、文化資源を発掘し、観光・文化創造に生かす実践研究や、小泉八雲の「オープンマインド」を社会に活かすプロジェクトを世界のゆかりの地で展開する。主著に『民俗学者・小泉八雲』(恒文社、1995)、『怪談四代記——八雲のいたずら』(講談社、2016)ほか。日本ペンクラブ会員。小泉八雲記念館館長・焼津小泉八雲記念館名誉館長・島根県立大学短期大学部名誉教授。

画(怪談)

渡辺亮 Watanabe Ryo

神戸市生まれ。パークアシヨニスト・妖怪画家。武蔵野美術大学卒業。在学中よりブラジルのパークアシヨニを中心音楽活動を始め、数多くのレコーディング、コンサートに参加する。また、東京青山「こどもの城」講師を経て、全国でパークアシヨニのワークショップを多数行っている。東京学芸大学非常勤講師。ソロアルバムに『ウォレス・ライン』『モルフォ』、著書に『レツツ・プレイ・サンバ』(音楽之友社)がある。自己の活動として、美術と音楽が共存できるプログラム「音と妖怪」「美術と音楽」を主催している。

Koizumi Yakumo no KWAIDAN Dzukushi